

## 夏本番前から熱中症予防対策を!!



1 東京消防庁管内\*では、平成27年6月1日から9月30日までの4か月間に、熱中症（熱中症疑いを含む）により4,702人が救急搬送されました。

前年比1,335人（約40%）の増加となっていました。原因としては、平成27年は、東京で7月31日から8月7日まで8日間連続で猛暑日を記録するなど猛暑日が多かったこと、平年より梅雨明けが早く、暑い期間が長かったことなどが考えられます。

年齢区分別発生状況を前年と比べると、全年齢区分で増加していました。特に6～12歳の小学生の年齢と65歳以上の高齢者は過去5年間で最も多くなっていました。

また、65歳以上の高齢者は前年比62.3%増加していました。

平成27年は、65歳以上の高齢者が、2,330人と全体の約半数を占めており、そのうち1,647人が75歳以上の後期高齢者で65歳以上の約7割を占めていました。

熱中症による救急搬送は、梅雨明け後から急増し、7月、8月の気温が高くなった日に多く発生しました。

※ 東京消防庁管内：東京都のうち稲城市と島しょ地区を除きます。

### 2 年齢区分別の熱中症発生場所

年齢区分別に発生場所を見ると、乳幼児（0～5歳）、高齢者（65歳以上）は「住宅等居住場所」が最も多く、乳幼児は45.5%、高齢者は59.8%と多くを占めていました。小学生となる6歳～12歳は「公園・遊園地・運動場等」が、中学生となる13歳～15歳、高校生となる16歳～18歳は、いずれも「学校・児童施設等」が最も多くなっていました。

